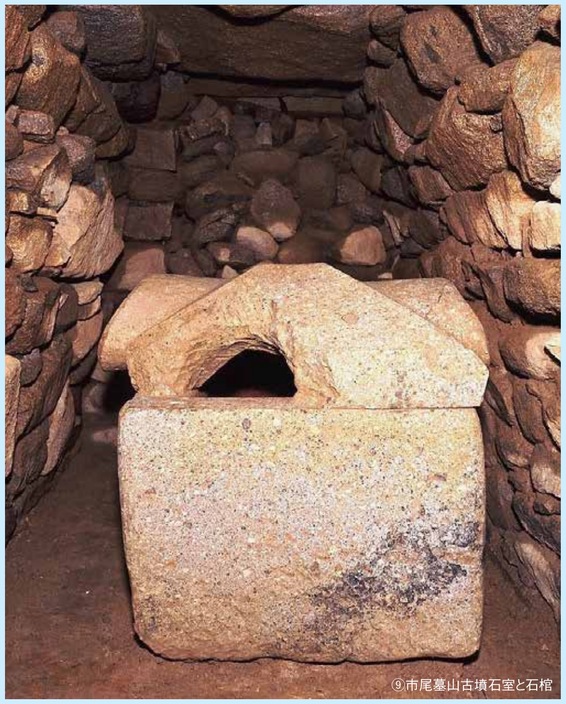
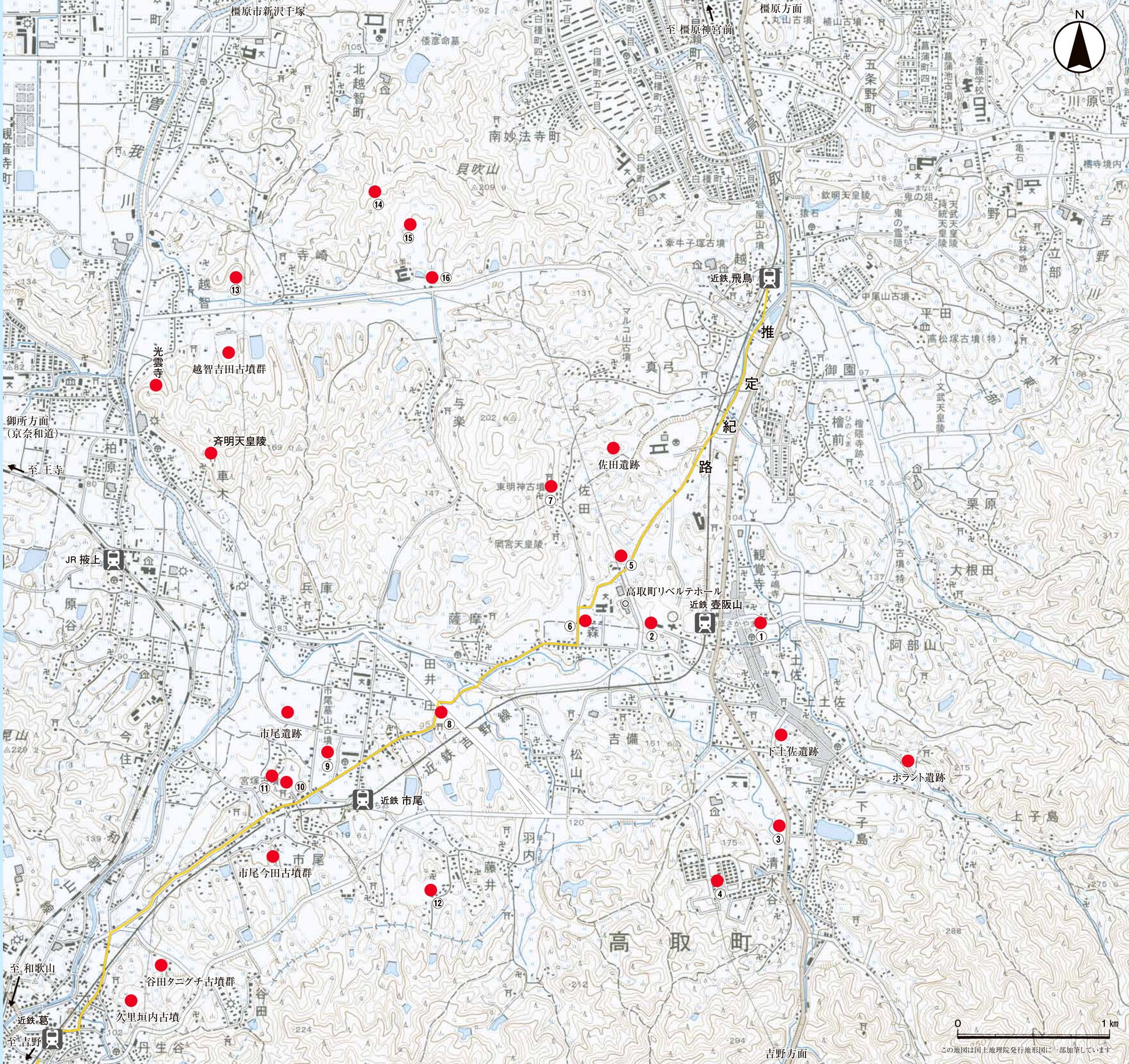
高取 埋蔵文化財（埋文）散策マップ

第二版



⑨市尾墓山古墳石室と石棺

⑮与楽鑵子塚古墳出土品「奈文研撮影」



埋文マップのお問い合わせは

高取町教育委員会 ☎ 0744-52-3715

〒635-0135 奈良県高市郡高取町観覚寺1023番地

奈良県 高取町教育委員会

1. 観覚寺遺跡（調査後埋め戻し）
大字観覚寺に所在する渡来系氏族の集落である。大壁建物や石組方形池などが検出されている。大壁建物は東西 7.6 m 南北 8.8 m を測る方形の溝に直径 15㎝ の柱を並列させた痕跡が見つかり、上面を分厚い壁で覆った建物と考えられる。下層から石組の焚口・燃焼部・煙道・煙出し等のオンドルが検出された。石組方形池は東西 4 m 南北 3 m を測り一辺 20 ～ 30㎝ の平滑な石を数段積んで護岸とし、底面は平坦で深さ 40㎝ が残存していた。石の背面には粘土で裏込めされていた。大壁建物は 6 世紀代、石組方形池は 7 世紀前半頃の遺構と考えられる。（写真） 石組方形池

3. 清水谷遺跡ナルミ地区
（調査後消滅）
国道 169 号線沿いにある清水谷遺跡ナルミ地区は渡来系氏族の集落である。大壁建物、掘立柱建物、竪穴建物、区画溝等が検出されている。大壁建物はⅢ時期の 3 棟以上が部分的に検出されている。大壁建物 1 は、一辺 10.5 m を測る正方形で幅 50㎝ の壁溝に直径 20㎝ の柱の痕跡が確認されている。下層には焚口・燃焼部・煙道・煙溜まりを備えたオンドルがあり、壁面は熱を受け赤く変色し炭片が混じった粘質土が堆積していた。掘立柱建物もⅢ時期あり、大壁建物と建物の主軸を同一にしている。遺構から須恵器・土師器等が出土し、韓式系土器が含まれる。出土遺物等からオンドルを備えた大壁建物 1 は 5 世紀後半と考えられ 7 世紀前半まで大壁建物は継続しているようである。
（写真）大壁建物 1 のオンドル

9. 国指定史跡　市尾墓山古墳
大字市尾に所在する市尾墓山古墳は、墳丘長 70m 高さ 10m 周溝と外堤を合わせると 100m 規模の 2 段築成の前方後円墳である。後円部の墳丘上段に、玄室の長さ 5.9m 幅 2.6m 高さ 3m、羨道の長さ 3.5m 幅 1.8m を測る片袖式の横穴式石室がある。石室は比較的小型の石を 8 ～ 10 段を持ち送りながら積んで、天井石が 5 石架けられている。玄室に刳り抜きの凝灰岩製の巨大な家形石棺があり、石棺の内外に赤色顔料が塗布されている。平面形態は細長い長方形を呈し、平らな天井の巨勢谷地域の古墳と共通している。墳丘表面に葺石と朝顔形や円筒埴輪が並べられ、墳丘に立てられた鳥・笠・石見型盾等の木製品が周溝から出土している。石室からガラス玉、鉄刀・刀子・コロク金具・鉄鏃、鞍金具・杏葉・雲珠・辻金具等の金銅装の馬具と須恵器等が出土している。市尾墓山古墳は 6 世紀初頭の築造で豪族巨勢氏の首長が被葬者と考えられる。（写真） 市尾墓山古墳墳丘

11. 市尾（高台）瓦窯跡
（調査後埋め戻し）
市尾天満丘陵西側にある市尾瓦窯跡は古くから藤原京所用の瓦窯跡があったと伝わり、出土遺物の研究や踏査が行われた。発掘調査された窯跡は全長 6 m 幅 1.3m を測る登り窯で、西側下面から焚口・燃焼室・焼成室・煙道・煙突からなる。地山の花崗岩をトンネル状に刳り抜いて、その内部に硬く固めた粘土ブロックをアーチ状に積んで炉壁を構築している。炉壁の天井や裏込めには版築によって強く叩き締められた粘土で被覆していた。窯内部は火の回りを良くするため床面に丸瓦を等間隔に並べた階段を設けている。窯から軒丸瓦・丸瓦・平瓦・道具瓦と鏄が出土した。放置した瓦と崩した窯体の上面に操業終了に供えられた馬歯（馬の下顎）を検出した。燃焼室から出土した藤原宮大極殿に使用された屋瓦と同形式の複弁八葉蓮華文の軒丸瓦が出土し、市尾瓦窯跡は藤原京造営に伴う 7 世紀後半の窯跡であることが明らかになった。遺構は埋め戻されたが、付近に多く窯跡が存在すると考えられている。（写真） 燃焼室から出土した軒丸瓦

2. 観覚寺鳥ヶ峰古墳群
（調査後消滅）
高取町役場のある丘陵西端に所在した 3 基の木棺直葬を埋葬施設とする古墳群。1 号墳は直径 16 m を測る円墳で、墳丘に円筒埴輪と形象埴輪があり、墳頂に 4 基の木棺を埋葬していた。中央にある 1 号棺から碧玉製管玉・銀装空玉・水晶切子玉・滑石製小玉・銀製耳環、鉄刀・鹿角装短刀・鉄鏃・コロク金具、鉄斧・砥石、須恵器等が出土した。2 号墳の棺外から鉄剣、鉄斧等、3 号墳からガラス小玉・鉄刀・鉄鏃、須恵器等が出土している。1 号墳は古墳の規模から副葬品は豊富で豪族の長クラスが被葬者として考えられる。古墳群は調査終了後に消滅したが、歴史研修センターに出土品が展示されている。
（写真）鳥ヶ峰 1 号墳埋葬施設

4. 清水谷古墳群（調査後消滅）
グリーンタウン造成に13基の古墳が調査された。古墳は 13 ～ 20m を測る円墳が 10 基と一辺 7 m を測る方墳 3 基が丘陵上に点在していた。古墳群で標高 187m と一番高い所に立地する 10 号墳は、直径 20m を測る円墳で、墳頂に 2 基の木棺直葬の痕跡がある。1 号棺は割竹形木棺と推測され、鉄刀・刀子・鉄鏃・鉄鎌・辻金具等と須恵器、2 号棺は組み合わせ木棺から琥珀製切子玉・銀製耳環、鉄刀・鉄鏃・鉄製轡等と須恵器が出土した。また 1 号墳から鍔付の鉄刀等が出土している。木棺に使用される鉄釘が多く検出されることが古墳群の特色である。10 号墳は 6 世紀前半、1 号墳は 7 世紀初頭、7 m 規模の方墳は 7 世紀中頃の築造と考えられ、6 世紀前半から 7 世紀中頃まで約 100 年間営まれた木棺直葬の古墳群である。
（写真）10 号墳第 2 号棺　遺物出土状況

10. 国指定史跡　市尾宮塚古墳
天満丘陵上に位置する市尾宮塚古墳は墳丘長 44m 後円部高さ 7 m を測り、前方部墳丘の高さ 4.5m で後円部より低い。後円部北側に横穴式石室が開口している。玄室の長さ 6.2m 幅 2.5m 高さ 3 m、羨道の長さ 5.4 m 幅 1.5 m を測る。石室は墓山古墳より大きな石を 5 段積み上げて構築している。石室は両袖式で、平面と天井の形態は墓山古墳と共通している。玄室に凝灰岩製の刳り抜きの家形石棺があり、内外に赤色顔料が塗布されている。石室の調査からガラス製トンボ玉・水晶切子玉・銀装空玉・金銅装耳環・金銅装環頭大刀・銀装捩り環頭大刀・鉄製小札、金銅装鞍金具・杏葉・辻金具、銀製魚形歩揺・金銅鈴、須恵器と追葬の木棺に使われた鉄釘が出土した。出土遺物等から宮塚古墳は 6 世紀中頃の築造と考えられ、豊富な副葬品から墓山古墳と同じ豪族巨勢氏の首長と考えられる。
（写真）宮塚古墳石室と石棺

12. 藤井イノヲク古墳群
（調査後消滅）
大字藤井に所在する藤井イノヲク古墳群は 20 数基からなる丘陵上にある古墳群で、土取り事業に伴い 13 基が調査後消滅した。古墳は直径 13m ～ 20m を測る円墳の 5 世紀末から 6 世紀の木棺直葬墳である。1 号墳は直径 15m の円墳で木棺の南小口から鉄鉗、鑿、鉄床、鉄鎚等の鍛冶工具と須恵器が出土し 6 世紀後半に築造である。12 号墳は径 20m×15m を測る楕円形墳で墳丘南側に造り出しをもつ。墳丘内に土師器煙突型土製品の両端に土師器鍋と須恵器大甕を被せた土器棺が検出され、12 号墳の築造は 6 世紀中頃と考えられる。16 号墳は 16m を測る円墳で、埋葬施設 2 の組み合わせ木棺から碧玉製管玉・琥珀製棗玉・水晶製切子玉・銀装空玉・ガラス小玉、銀装円頭大刀・鉄鏃等と須恵器・土師器が出土した。遺物から古墳の築造は 6 世紀後半と考えられる。藤井イノヲク古墳群の鍛冶工具等が含まれることから被葬者は渡来系工人の親方層と考えられている。12 号墳から出土した土師器煙突は町指定文化財で 16 号墳出土遺物と歴史研修センターに展示されている。（写真）イノヲク 16 号墳遺物出土状況

5. 森カシ谷遺跡群（調査後消滅）　大字森に所在した森カシ谷遺跡群は推定紀路を見下ろす丘陵上に長さ 40 m を測る前方後円墳のカシ谷 1 号墳、墳丘を破壊し古代の砦としたカシ谷遺跡、南斜面にあるカシ谷塚古墳等からなる。カシ谷 1 号墳は埋葬施設が削平されていたが土壙から多くの須恵器が出土し、古墳は 6 世紀前半の築造である。カシ谷遺跡は丘陵の三段以上の平坦面に、柵と溝を巡らせ頂上に物見台（一説に烽火台）と北側の平坦面に東西 4.8 m 南北 12.7 m を測る 2×5 間の掘立柱建物がある。遺跡は飛鳥中心部を防御する施設で 7 世紀後半の時期と考えられている。カシ谷塚古墳の墳丘は中世以降に破壊されたが、基底に残された小石が詰まった十字形の排水溝、版築による墳丘盛土から直径 14 m の古墳時代終末期の円墳である。また、古墳の裾に古代の鉄板が埋納された土壙が検出された。森カシ谷遺跡群は古墳時代から飛鳥時代にかけて大変貴重な遺跡と言える。（写真） 森カシ谷遺跡 古代砦跡

7. 佐田束明神古墳（調査終了後埋め戻し）
大字佐田にある束明神古墳は 7 世紀末に築造された古墳時代終末期の古墳で春日神社境内の傍らに位置する。墳丘は尾根斜面を大きく造成し平坦面を作り、その中央に墳丘を築造する。一辺 36m の方（八角形）墳を版築といわれる工法で築造している。墳丘内に凝灰岩のブロックを組み合わせた石槨を構築している。古墳から円形の棺金具と鉄釘、須恵器・土師器等が出土している。古墳の被葬者は天武と持統天皇の皇太子であった草壁皇子が有力視されている。復元された石槨は奈良県立橿原考古学研究所附属博物館で見学できる。
（写真）発掘調査時の束明神古墳石槨（橿考研）

13. 越智遺跡
大字越智の越智遺跡は高取町北西部に位置し、遺跡から縄文時代晩期から弥生時代中期の土器や石器が採集されるが、鎌倉時代や室町時代の遺構や遺物が最も多く検出され出土する。集落東端の字オヤシキに中世の土豪 越智氏の城館跡がある。一部が発掘調査され建物の柱穴や区画溝・土壙等が検出された。また、越智公民館周辺の調査から濠・土塁、道路の側溝等が検出され、土師皿・瓦器椀・瓦質土器等の中世土器が多く出土した。なかには、青磁等の貿易陶磁器や漆器も見られる。中世に大和を二分するほどの勢力を誇った越智氏の城館跡や周辺の地形が良く残っているのは稀である。
（写真）越智遺跡オヤシキ全景

15. 国指定史跡　与楽鑵子塚古墳
大字与楽にある与楽鑵子塚古墳は直径 28m 高さ 7.5m を測る円墳である。墳丘南面に横穴式石室があり、石室玄室は長さ 4.2m 幅 2.8m高さ4.2mを測る。閃緑岩（飛鳥石）を 7 ～ 8 段積み上げた片袖式で、羨道の長さ 5.4m 幅 1.4m 高さ 1.8mで羨道にある閉塞が高さ約 1 mが残存している。石室から金銅装・銀製耳環・ガラス小玉等、銀装指輪、金銅装鞍縁金具・鉄製轡・鉄製杏葉・鉄製雲珠・鉄製辻金具等、鉄製釣針、鉄製刀子、須恵器・土師器等が出土した。杏葉は三葉文（パルメット）が施された鉄製の馬具である。土師器に竈・甑・鍋のミニチュア炊飯具が含まれる。古墳の築造は 6 世紀後半と考えられる。
（写真）　与楽鑵子塚古墳墳丘

6. 森ヲチヲサ遺跡（調査後消滅）
高取中学校南側に渡来系氏族の集落、森ヲチヲサ遺跡がある。一辺 13.5 mを測る正方形の大壁建物が検出された。幅 50㎝ の壁溝に直径 20㎝ を測る柱の痕跡が並列しているのが確認された。建物の一周は 54m、面積は 182㎡ である。内部に直径約 80㎝ の楕円形の土壙が 10 ヶ所確認され、建物の屋根を支えた柱穴（2×3 間）と考えられている。また、下層に炭片が混じった粘質土が堆積し、掘削すると焚口・燃焼部・煙道等が検出され、オンドルであることが確認された。大壁建物は遺構の重複から 3 回以上建て替えられている。大壁建物から、土師器・須恵器・滑石製勾玉等が出土している。大壁建物 1 は出土遺物等から 5 世紀後半の建物である。周辺は古墳時代の和歌山方面への主要ルートである紀路が推定されている重要な地域である。遺跡は現在の水田下に拡がり渡来系集落を形成していると考えられる。
（写真）森ヲチヲサ遺跡の大壁建物

8. 薩摩遺跡
（調査後消滅）（第 9･11･12 次調査）
大字薩摩・田井庄に所在する遺跡。県道拡幅のため発掘調査を実施した。第 9 次調査で竪穴建物・方形周溝墓・土壙・大壁建物・柱穴・区画溝・掘立柱建物等、11 次調査で石敷き遺構・掘立柱建物、12 次調査で土壙・大壁建物・柱穴等が検出されている。9 次調査で検出された大壁建物は全体を復元すると一辺 15m を測る巨大な建物である。12 次調査の大壁建物は 3 棟が部分的に検出され、一辺が 8 m に復元されている。9 次調査で径 1.2m の楕円形の土壙を検出した。土壙から壺・甕・鉢・高杯・器台等の古式土師器と土玉が出土した。土壙は形態や遺物の出土状況から井戸で、古墳時代初頭と考えられる。また他の土壙から鏡を模倣した鏡型土製品が出土している。
（写真）　薩摩遺跡土壙の遺物出土状況

14. 国指定史跡　寺崎白壁塚古墳
貝吹山南麓に横穴式石室・横口式石槨を有する 100 基からなる与楽古墳群にある大字寺崎の寺崎白壁塚古墳は、墳丘の規模 30m 高さ 9 mを測る方台形墳である。尾根斜面を大きく造成し平坦地を作り、墳丘 1 段目は地山を整形し 2 段目は版築により盛土が施されている。墳丘背面に幅 7 m 深さ 2 m を測るコ字形の掘割りがある。埋葬施設の内法は、幅 1.1m 長さ 2.2m 高さ 0.9m を測る閃緑岩（飛鳥石）の巨石を組み合わせた横口式石槨に前室と羨道がついて全長 11 m を測る。石槨と羨道の石材間に漆喰が塗られている。石室から土師器平底甕、ミニチュア鍋・竈の破片と鉄釘等が出土した。古墳は 7 世紀中ごろに築かれ、背面は丘陵で大きくせまり、前面は開けるなど、風水思想の影響と考えられる。
（写真）　寺崎白壁塚古墳の横口式石槨

16. 国指定史跡　与楽カンジョ古墳
大字与楽にある与楽カンジョ古墳は一辺 36m 墳丘の南裾から高さ 11m の方墳である。墳丘南面に石室玄室は長さ 6 m 幅 3.8m 高さ 5.3m を測る。大型の閃緑岩を 5 段積んだ石室を構築した両袖式で、羨道の長さ約 5.3m 玄門の幅 1.5 m を測り、羨道の先端は拡がっている。玄室内に漆喰をペースト状に固めた棺台がある。石室内から金銅製耳環・銀製指輪、不明鉄製品、砥石・須恵器・土師器等が出土した。カンジョ古墳は玄室の平面規模に比べ天井までが高いドーム型の石室で、高さでは奈良県で一番である。古墳の築造は 7 世紀前半と考えられる。また、羨道閉塞石の下から 8 世紀初頭の須恵器杯が出土した。カンジョ古墳を含め与楽古墳群は石室形態や出土遺物から渡来系氏族東漢氏と考えられている。（写真）　与楽カンジョ古墳石室

地図番号と解説・写真番号は同じ